

## 北部

ワウニア県政府運営避難民キャンプ  
「マニック・ファーム」

## 東部

スリランカ・バティカロア県  
キラン郡およびチェンカラディ郡

2009年5月、スリランカ政府の勝利宣言により、反政府武装勢力「タミル・イーラム解放のトラ」(LTTE)との間で25年以上続いた内戦が終結しました。

戦闘が激化する度に何度も避難を余儀なくされていた住民は、内戦終結直前に東部で展開された徹底的な掃討作戦で、ほぼ全員が避難しました。

内戦終結と同時に帰還が始まりましたが、バティカロア県のキラン郡とチェンカラディ郡は中でも新しい帰還地です。定住してゆくための支援をまだ必要としている人々のための自立支援を行いました。

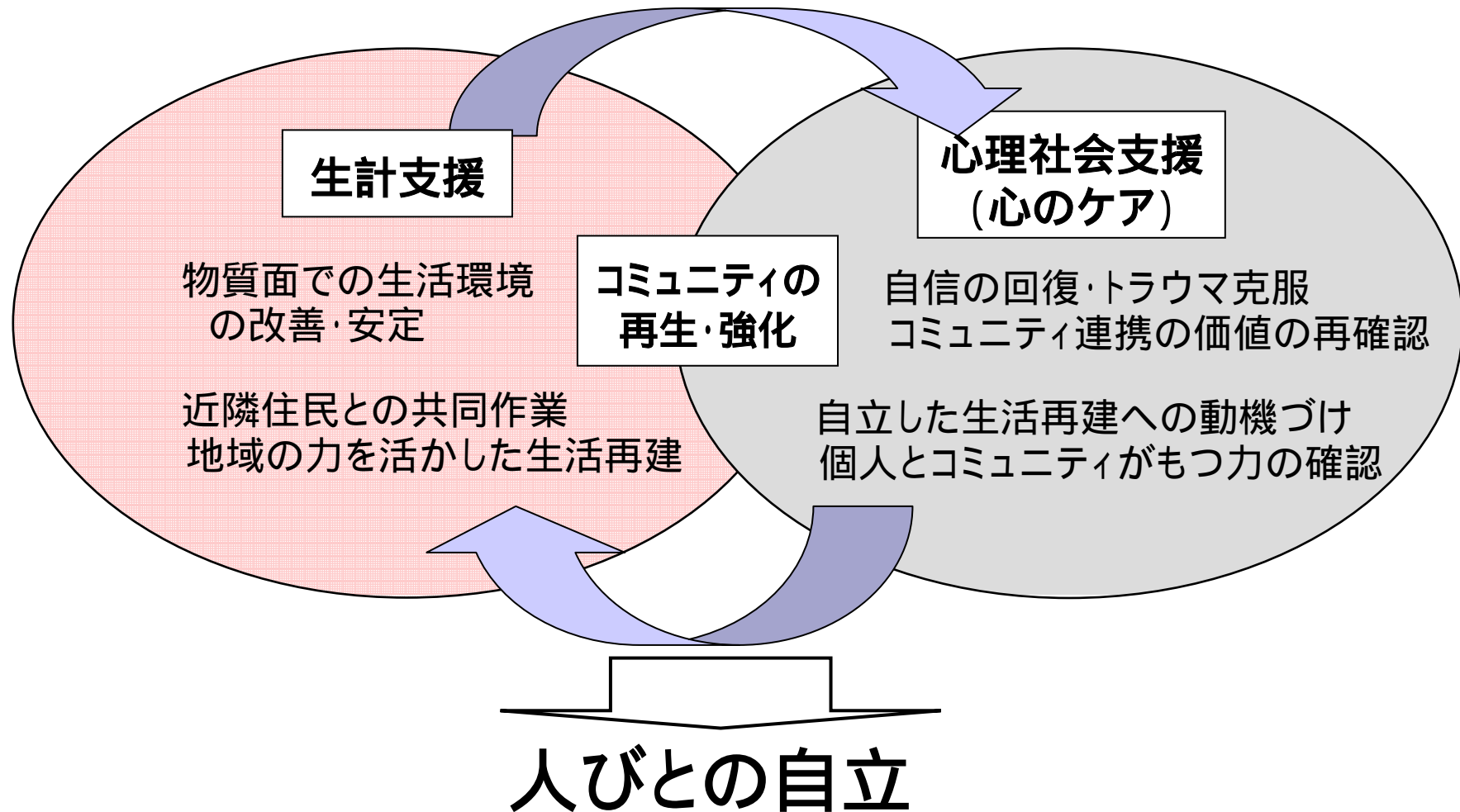
北部では、掃討作戦を逃れた人々が「マニックファーム」という避難民キャンプに集団収容されたばかりで緊急状態にありました。そこでジェンは、水供給の支援を行いました。給水支援は避難生活で消耗している人びとの生命維持や疫病予防に直結します。



# 事業ハイライト *in* スリランカ東部 / 生計回復と心のケア



東部では、家も財産も生計手段も失った人びとが、故郷に帰還した後、滞りなく生業に復帰し、復興と平和を実感することで、経済的にも精神的にも自立するための支援を行っています。





## 事業ハイライト *in* スリランカ東部 / 生計回復と心のケア



紛争では、建物や生計手段が失われてしまうという物理的な被害に加え、トラウマや避難生活のストレスによる家庭内の不和や、地域の営みの中断によるコミュニティ機能の喪失という目に見えにくい被害も起こります。そのような心の傷を回復し、住民ひとりひとりが、自信を持って地域社会を再生・発展させていけるよう、生計回復とともに、心理面の改善につながる支援を行いました。

- **農業支援：**  
種子と農具の配布 / 苗生産と家庭菜園の技術指導 / 栄養改善指導



家庭菜園の訓練



心のケア：農業・漁業支援の中で、共同作業とカウンセリングによる心のケアを並行して行います。



# 事業ハイライト in スリランカ東部 / 生計回復と心のケア



## ● 漁業支援

2つの漁業協同組合の組織強化、31セットのカヌーと魚網配布



漁協へのカヌーの配布式

### 漁協のキャパシティ・ビルディングを通じた コミュニティの再生

東部バティカロア県キラン郡の灌漑湖で漁をする漁業協同組合(漁協)に、漁業用カヌーと魚網を配布。紛争で避難している間に漁具を失ってしまったことに加え、再定住後に組合員の数が増えたことから、カヌーがとても必要とされていました。

配布に先立ち、ワークショップを実施。漁協共有の財産であるカヌーを公平に使用方法、また、漁協からのカヌー貸出しの際に発生する収支を記録する大切さやその方法について学びます。コミュニティで資源を管理することの重要性を理解することで、コミュニティの強化につながります。



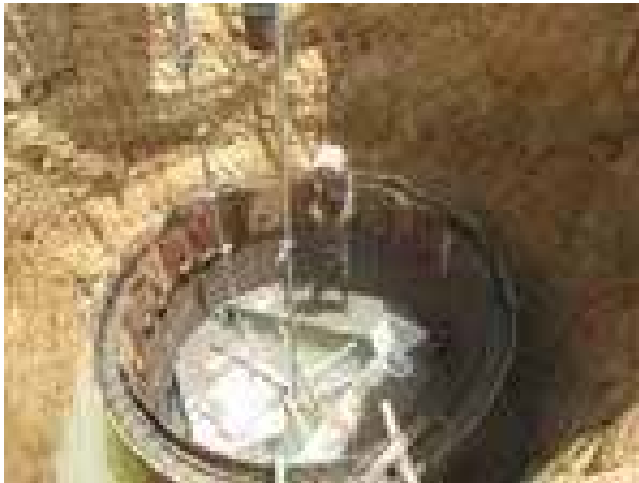
帳簿管理のために使う筆記用具も配布。漁協は、カヌーを使用することによって得た収入やカヌー使用に伴う支出などを帳簿で管理している。



## 事業ハイライト *in* スリランカ東部 / 生計回復と心のケア



### ● 農業用井戸の建設中



#### 水不足の解消に向けて

東部では20年以上に渡り、水不足の問題が続いています。この地域には地中に大きな岩が多くあり、深い井戸を掘ろうにもすぐに岩にぶつかってしまう、ということが、水問題の原因の一つです。

そのため、人びとは乾季(4月～8月)に定期収入がなく、町で日雇い労働者として働くことで家族の暮らしを支えています。ジェンでは、稲作のできない乾季に畑を耕すための水源として、農業用の井戸の建設を開始しました。この井戸は、住民自らがその利用方法やメンテナンスを協議し、実施します。

ジェンスタッフとバダムナイ村の住民で井戸の運営会議に関する小会議。  
「すごく大きな井戸だね。これで水不足は解消されるね！」との喜びの声が。



# 変化と効果



## 乾期に強い家庭菜園

### 支出削減の効果

プラスチックのバッグを使った家庭菜園を導入することで、例年、収入が大きく減る乾期(4月～8月)にも、とうがらしが栽培できるようになり、支出の削減と栄養源の確保ができました。

以前は乾季には、ひと月の野菜購入が平均1,095ルピー(約900円)でしたが、家庭菜園を初めてからは、463.3ルピー(約370円)で済むようになりました。また、100%の受益者が家庭菜園を通して生活が向上したと感じています(参加者101人に対する聞き取り調査)

### リーダーの誕生

約7世帯からなるサブ・グループに配布した農具(一輪車、噴霧器)は、サブ・グループのリーダーが自主的に貸し出し帳簿を作成し、適切に共用しています。これにより貸し借りがスムーズにできるようになりました。





# 変化と効果



## 漁協のキャパシティ向上と地域への貢献

漁協のメンバーに対するキャパシティ・ビルディングのワークショップでは、月例会議や収支の記録の重要性や問題解決のためのファシリテートの方法、SWOT分析について学び、リーダーシップ研修を実施。その結果、漁協の収入に関するルールをメンバー主体で決定する動きが生まれ、さらには、漁協の収入を用水路の清掃や幼稚園への備品寄付に充てるなど、コミュニティの問題解決に貢献しています。



## 取り戻した地域の絆

ワークショップや共同作業を通して、近隣の住民とのコミュニケーションが増えました。無作為に選んだ108人に、事業の実施前と実施後の「近隣の人とのコミュニケーション」について、以前と比較してどう変化したかに関する複数の項目を10段階評価してもらったところ、平均5.2段階から8.5段階に改善しました。近隣同士で、家族の近況や子どもの教育に関する問題、生計に関する問題について相談しあっているという結果が出ています。